

新しい公立高校入試制度について

今年度から実施された、
新しい公立高校入試制度の検証結果が示されました。

■導入までの経緯と、制度の概要

本市の公立高校入試は、長年、「総合選抜を中心とした制度(以下、総合選抜制度)」で行われてきました。ところが市民意識調査の結果等から、多くの市民が「総合選抜制度を改善すべきだ」と考えていることが明らかになりました。そこで平成17年12月議会に、私達の会派が中心となって、「総合選抜制度を改め、複数志願制度の導入を求める意見書」を提出し、賛成多数で可決された結果、制度導入に向けた本格的な検討が開始されました。こうした経緯を経て、**今年度から本市の公立高校入試制度は、総合選抜制度から「複数志願選抜を中心とした制度」へと大きく変更されました。**複数志願選抜は、
○受験者が志望校を2校まで選ぶことができる
○合格者は第一志望者を優先して決定されるという制度であり、従来の総合選抜と比較して、
○生徒が自由に志望校を選択できる
○生徒の自主的な努力を促すことができるというメリットがあります。また志望校に合格できなかった場合も、本人が希望し、一定の基準を

満たせば、いずれかの公立高校に進学できます。そのため志望校を1校だけ選ぶ単独選抜で発生する「受験プレッシャーが強い」「高校浪人が生まれる」といった問題点も補うことができます。

■制度導入後の検証結果

検証の結果、以下の内容が明らかになりました。
○総合選抜制度・最終年にあたる昨年度入学者選抜の倍率は1.06倍。これに対して、今年度の倍率は1.22倍と複数志願選抜制度導入後、公立高校への志願者は増加している。
○志望理由の多くを「大学等への進学や就職の状況」が占めている学校、「通学時間」が占める学校等、学校によって志望理由が大きく異なる。
○複数の学校を志願する受験生が93.2%と、受験生全体の大半を占めている。

これらの内容からは、**新制度の導入によって市内の公立高校全体の魅力が増していること、多くの生徒が新制度を積極的に活用していることが伺え、制度の導入は成功であったと言えます。**今後は、市内公立高校の魅力向上・制度の定着と改善等の課題に取り組んでまいります。

■諸事雑感

政権交代後、様々な分野において従来の制度・現状の見直しが進められようとしています。福祉分野では、介護事業者・介護従事者の報酬見直し、一人親の生活保護家庭に対する母子加算の復活、後期高齢者医療制度・障害者自立支援制度の見直し等が主なものとしてあげられるのではないのでしょうか。これらは、いずれも多くの方々の生活に大きく関係しており、見直しを実現した場合の、制度の円滑な導入・運用の実現は大きな課題です。地方自治体には、制度・現状の変革に対応する義務があります。市政を監視する市議会議員の一員として、今後の展開を注視しつつ、必要な指摘・提案を続けてまいります。

澁谷 祐介：西宮市議会議員／二期目

- 昭和48年12月26日生まれ。B型・山羊座。
- 市立浜脇小・浜脇中・私立明星高・京都大学経済学部卒業。
- 平成8年4月より平成16年8月まで阪急電鉄株式会社勤務。
書店ブックファースト・アズナス(コンビニ)等、小売事業を中心にキャリアを積む。
- 平成16年11月、西宮市議会議員補欠選挙にて初当選。現在二期目。
- 好きな言葉：一利を興すは一害を除くに如かず
- 好きな作家：司馬遼太郎
- 尊敬する人物：織田信長

>>>more!

”しぶや祐介”

<http://y-shibuya.blogzine.jp/blog/>

↑こちら↑で、日々の詳しい活動のご報告や政策を、ご覧いただけます。ぜひ、ご覧下さい。

しぶや祐介事務所：〒662-0927西宮市久保町1-16-202/e-mail:shibuya@room.ocn.ne.jp

西宮市議会議員

しぶや祐介

市政報告・第19号×2009年10月

私たちが暮らす、
西宮の未来のために。

浜脇小・浜脇中・明星高・京都大学卒
元阪急電鉄(株)勤務 / 行動する政治/

TOPICS&CONTENTS ～今号の目次&内容～

- ◆2008年度決算のご報告/
きわめて厳しい財政状況
- ◆介護需要の増大について/
具体的計画の策定・推進を!
- ◆生活保護制度について/
担当職員の増員と運用の改善を!
- ◆子育てするなら西宮/
保育所待機児童の解消を!
- ◆入札制度改革/
談合を防ぐ仕組みづくりを!
- ◆高校入試制度について/
新しい高校入試制度の検証結果

2008年度決算のご報告

本市の財政は、きわめて厳しい状況にあります。

■決算概要

9月議会において2008年度決算の内容が報告されました。歳入総額2234.6億円、歳出総額2212.8億円、実質収支は17.5億円の黒字。これらは一見好調な数字に見えますが、実際には本市の財政はきわめて厳しい状況にあります。

■指標が示す厳しい現実

財政の硬直度を示す「経常収支比率」という指標があります。これは「毎年必ず出ていく支出」が「毎年入ってくる自由に使える財源」に占める割合を表す指標です。この数値が高いほど、財政の硬直度高い(=自由に使えるお金が少ない)ことを意味しますが、本市

の経常収支比率は98.2%と標準値とされる70~80%を大幅に上回っています。これを家計に例えると「収入の98.2%が食費・水道光熱費・ローン返済等の固定的な支出で消えてしまい、自由に使えるのは残り1.8%だけ」という厳しい状況にあたります。これは、
○約1931.8億円という巨額の市債(=借金)の存在
○人口規模等が類似した38都市中2位という職員の給与水準の高さ等の要因によるものです。**自治体を円滑に運営し、多様化・高度化する市民の要望に応えるためには、柔軟性のある財政状況を築かなければなりません。**引き続き、財政状況の改善に取り組んでまいります。